

肉の安全・安心は  
北陸ミートから!

HACCPシステム対応 北陸ミート株式会社  
本社・工場 / 富山市金屋 2718番13  
☎(076)443-7272(代)

富

山

# ヒポクラテス を超えて



&gt;2&lt;

## まぶたでの会話

◆まぶたの会話  
「もしもれの声が聞こえたら目をパチパチしてみて」

2006年7月の事故から数ヶ月後。昏睡状態から目覚めた松尾巻子さんが(70)に夫幸郎さん(77)が呼びかけた。大きくまばたきする巻子さんが、見や知性が残っている証しだった。

声帯も含めて全身が麻痺しているので、意思表示ができない。いわゆる「閉じ込め症候群」だった。しかし、松尾さんの質問に対して「イエス」ならまばたきを2回、「ノー」なら目をギュッと閉じる。二者択一の意思疎

通が続いた。

「会話」の糸口は作業療法士の何気ない一言だった。巻子さんが唯一で生きるまばたき。それを合図に、伝えたい平仮名を一字ずつ特定できるは

# 夫婦二人二脚で復活

復活した。

## ◆2人の出会い

狙い通りだった。「いつもありがとうございます」。ついしていいます」。点灯す

幸郎さんと巻子さんが

結婚したのは1972年。見合いだった。とも

に滑川市出身。色白で小柄。子供好きで心やさし

い巻子さんに幸郎さんは

18歳から米国の商社で働くひらがなの文字盤にまづり詰め、20年間務めあげたアメリカってどんな国なんだろう」。そんな思いから国際ビジネスへの興味が生まれた。大学時代に米国に留学。何度かの転職の後、巻子さんはと子供2人と一緒に、書きで「巻子の言霊集」



事故前、孫を散歩に連れて行く松尾さん夫婦=松尾幸郎さん提供

2011年6月14日。

記者と会った時、巻子さんはこう伝えた。「きょうはおめにかかれてうれしいです」。幸郎さんは「あなたに語ったこの言葉も記しておきますよ」と目を細めた。

裁判、介護、会話の復活……。幸郎さんにとって目まぐるしい日々が過ぎていった。そして、尊厳ある生き方が問われる場面はやがて訪れた。

ある。会話補助器を通して巻子さんが伝えた言葉を幸郎さんは全て書き写してきたのだ。

「あなたのねんれいでまいにち よゆうがありますか ごくろうです」。幸郎さんを思い、時には気遣う言葉が見られる。